

# 令和5年度 研究推進計画

熊野町立熊野第四小学校

## 1. 研究主題

主題 主体的・協働的に学び、**共に高め合う**児童の育成

副題 ～共生の視点を基盤にした課題発見解決型の体育科授業でのリフレクションタイムの活用を通して～

## 2. 主題設定の理由

過去3年間本校では、新学習指導要領でも述べられている「共生」の視点を中心に据えた体育科の学習、関わり合いを手段とした課題発見解決学習、単元モデルを活用した授業づくりに取り組んできた。

その結果、「共生」の視点を踏まえた体育科の学習を通して、児童の意識アンケートでは、自他共に認め合ったり、運動の楽しさを味わったりすることのできた児童が増えたことがわかった。また、職員への意識アンケートにおいても、「共生」の視点を踏まえた学習指導や単元構成を通して、全ての児童に運動する楽しさを味わえるような学習を仕組むことができたこと、肯定的な回答が多く寄せられた。

一昨年度は、前年度の研究で培った共感的な学習集団を基盤に、関わり合いを通して課題解決していく体育科学習指導の実践を通して課題解決力の育成に取り組んだ。成果は、共生の視点・関わり合いを意図的に仕組む教材・単元開発をすることで、3つの資質能力をバランスよく育成することができたことや、運動が苦手な児童（抽出児童）に技能の伸びが見られたことであった。

昨年度は、過去2年間の積み重ねを活用すると同時に、体育科の単元モデルを作成し、課題を系統的に配置することで、児童に3つの資質能力をバランスよく育成することをねらって、主題を設定した。教職員への成果としては、1時間1時間の授業だけでなく、付けたい力や目指す子供像を念頭に、単元をデザインすることができるようになった。またこのような取り組みを通して、児童に3つの資質能力をバランスよく育成することができたことも大きな成果であった。

今年度は、学校教育目標とリンクさせ、「振り返りの充実」をテーマに研究を進める。具体的には、本校の体育科の授業では、主に終末に本時のめあてに関わる振り返りを行っているが、口頭で確認したり、ワークシートに記入したりする方法で行っている。しかし、全ての児童に振り返りの内容が定着しているわけではない実態がある。そこで本年度は効果的な振り返りの手法を研究することを通して、主体的・協働的に学ぶ児童を育成していきたいと考え、主題を設定した。

## 3. 基本的な考え方

先述したように、本校では、「共生」の視点を踏まえた体育科の学習を通して、児童がお互いを認め合い、スポーツの特性や楽しさに触れることができるようにすることで、共感的な学級集団を形成することを目指して取り組んできた。体育科における「共生」とは、「体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無に関わらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるようにすること」とされている。本校では、「共生」の捉えを、「①互いの違いを認め合う②自分の役割を果たそうとする③全員が楽しめるようにする」としている。このような視点を取り入れた授業を実現するためには、誰もがスポーツの特性や楽しさを味わうことができるような教材を開発したり、学習指導を工夫したりすることが必要であり、前年度の研究を通して本校職員の指導力の向上に一定の成果があった。

また一昨年度は、共生の視点を踏まえて形成してきた学級集団を基盤として、関わり合いを手段として児童が課題発見・解決する力を伸ばす研究を行った。本校が目指す「関わり合い」とは、**運動をする中で新しい課題を見つけ、互いの動きを見合ったり、友だちと改善点を話し合ったりする中で、課題を解決していくこと**である。このような指導を行うことで、児童は運動に関する課題を見つけたり、解決したりする力を伸ばすことができたと同時に、運動が苦手な児童を抽出し知識・技能の伸びを見取った結果、全ての児童において知識・技能の伸びが見られた。

昨年度は、3年目として、昨年度の課題にもなった単元全体を見通して、付けたい力を系統的に据え、毎時間の授業を効果的に配列するために、「熊四体育科単元モデル」を作成し、「誰でも・すぐに・簡単に」を合言葉に体育

科の単元モデルを構想できるようにすることで、児童に3つの資質能力をバランスよく育成することができた。

今年度は振り返りの充実を狙って、リフレクションタイム（全体での振り返りをする場）を設定し、本時のめあてに関わる振り返りを全ての児童が当事者意識をもって行うようにしていくことで、主体的・協働的に学ぶ児童を育成していきたい。また、リフレクションタイムを中心とした振り返りの充実で課題を明確にし、課題に応じた練習をすることを通して、児童が運動における成功体験を味わうことができるようにしていきたい。

また令和6年度に広島県小学校体育研究大会の本校開催に向けて、今後2カ年を組織的・計画的に研究を進めていきたい。

#### 4. 研究仮説

体育科の授業における、児童の課題に対する振り返りの手法を工夫することで、児童に主体的・協働的に学ぶ力を育成することができるだろう。

#### 5. 熊四小なわとびタイムについて

令和6年度広島県小学校体育研究大会に向けて体力向上の取り組みを発表する。保健安全部・体育主任と取り組み内容について連携を取り、今年度から組織的・計画的に取り組みを進めていく。

#### 6. 検証の視点と方法

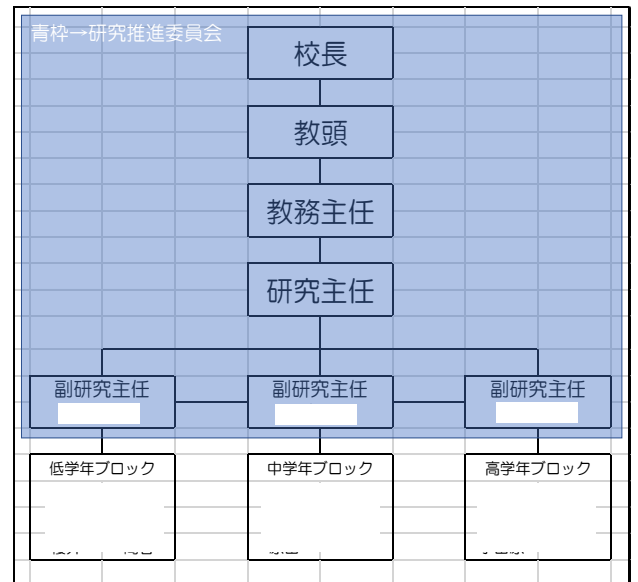
- (1) 児童、教職員の意識調査
  - ①授業前と授業後の児童の変容（全体）
  - ②体育科の授業作りに関わる教職員の変容
- (2) 知識・技能の変容
  - ・単元で見取る視点を学年で設定する。

例)「走り幅跳びの記録を20cm伸ばす」・「ボールをもらえる場所に動いてシュートする」・「台上前転ができる」

- ・抽出児童を決め、単元前、単元後の児童の変容を見取る。(抽出児童は各クラス原則3名以下とする。)

#### 7. 研究計画

- (1) 体育科の授業改善の取り組み
  - ①振り返りの充実
    - ②熊四体育科単元モデルの作成
    - ③熊四体育ファイル（ノート）を活用
    - ④児童の実態に合った教材開発，場の工夫
- (2) 研究組織（右記組織図参照）
  - ・今年度研究部は教務部に属す。
  - ・各ブロックに研究副主任を配置し、ブロック内の調整を行う。
- (3) 研究の進め方
  - ①全体研修について（全員参加）
    - ・全体研修は原則水曜日に行う。
    - 当学級は授業数がプラス1
    - ・全員が授業開始に間に合うように授業開始は通常の開始時刻より遅くする。
    - ・体育館で実施できる単元が望ましい。
  - ②ブロック研修について（参加者⇒校長・教頭・研究主任・同ブロック）
    - ・全体研修をする学級の相担は全体研修前後にブロック研修として同単元で行う。
    - ・研究公開・全体研修をしない学年はブロック研修として授業を行う。(同単元で行ってもよい)
    - ・学習指導案起案の流れ 学年で作成⇒ブロック検討（**ブロックメンバー・研究主任・管理職**）  
⇒起案（1週間前を目処）⇒修正⇒職員全体へ配布・初任者研修の師範授業と兼ねることもできる
    - ・協議会は上記の授業参観者で行う。(協議会の日程や記録は副研究主任が調整する)



# R5 研修計画（4月1日現在）

月 日	実施内容	備考
4月20日（木）	理論研（研究構想）研究の進め方	研究主任
4月20日（木）	授業づくり・指導案・アンケート	研究主任
5月 日（金）	職員会（指導案・アンケート）	
6月 日（ ）	ブロック研修①（全体研修①事前）	全体研①事前
6月21日（水）	全体研修①（高学年）	講師（ ）
	ブロック研修②（高学年）	
	ブロック研修③（高学年）	
9月 日（ ）	ブロック研修④（全体研修②事前）	全体研②事前
9月13日（水）	全体研修②（中学年）	講師（ ）
	ブロック研修⑤（中学年）	
	ブロック研修⑥（中学年）	
1月 日（水）	ブロック研修⑦（全体研修③事前）	全体研③事前
1月24日（水）	全体研修③（低学年）	講師（ ）
	ブロック研修⑧（低学年）	
	ブロック研修⑨（低学年）	
3月初旬	研究のまとめ	研究主任